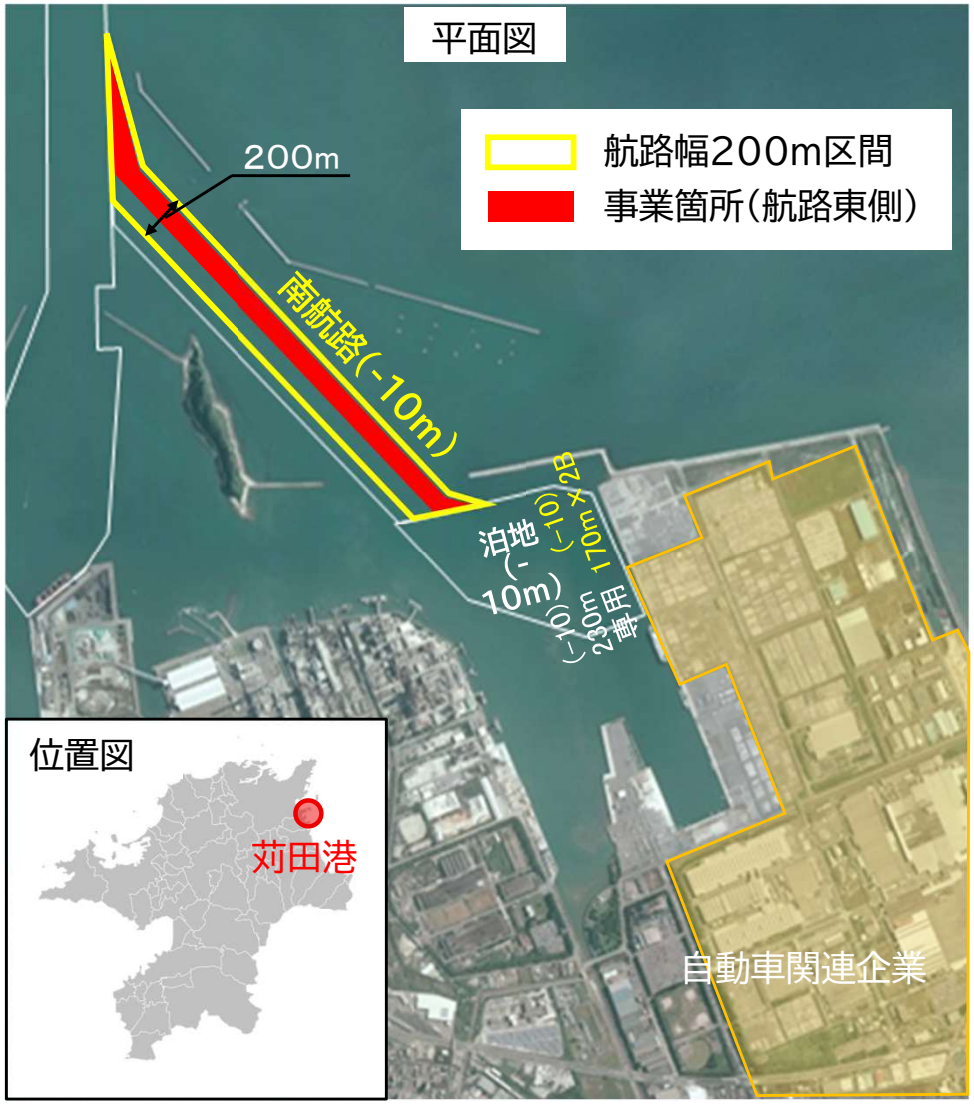
（事例）苅田港南航路の水深確保

資料２

○大型船舶による輸送効率化や、災害時の海上交通ネットワークの維持を図るため、苅田港南航路の東側を先行浚渫することにより、大型船舶の航行に必要最低限な航路幅200m区間の水深を確保する。



【整備による水深予測】
○整備有
水深-9.1m（R3） → 水深-10.0m（R12）
○整備無
水深-9.1m（R3） → 水深-8.1m（R12）
※R3は事業着手時点、R12はその10年後とした
※水深予測は埋没シミュレーションにより設定

【整備効果】
○整備有（-10.0m）
入港可能船舶例（実績）
船名　SALA　LEADER
総ﾄﾝ　70,497GT
積載台数
約3500台（非満載）



○整備無（-8.1m）
入港可能船舶例（実績）
船名　PHENIX
総ﾄﾝ　10,050GT
積載台数　約1500台



①大型船舶の入出港を可能とし、大量輸送の効率化を確保
（整備無に比べ輸送効率は約2.3倍向上）
②災害時に大型船舶が航行可能な海上交通ネットワークを確保